

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2019年12月1日
(No. 96)

2019
*
12月

NPO法人エコシティ志木
代表理事 天田 眞
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景 (24)

新河岸川 (寺尾調節池)

1998 (平成 10) 年の台風で 3,800 戸が浸水したのを受け、前号の九十川合流点の樋管・排水機場の設置とともに、その対岸 (右岸) の上流側 400m に築造された寺尾調節池。ふじみ野市との境界線に沿った川越市側の水田だったところで、周囲は以前から住宅開発されていた。面積 13ha、貯水量 36 m³ で、新河岸川堤防を切り下げた越流堤から川の水が流入する。内部にはヨシ・オギなどの群落とともにヤナギ類などの樹木も自生している。写真の後方左手が越流堤で、上には堤防をつなぐ橋が架かっている。その向こう側に新河岸川が流れていて、遠方の大きな建物は対岸の九十川排水機場。

(天田 眞)

「カヤネズミの巣を探そう」に参加して

9月22日、雨模様の予報にもかかわらず24組56人(子ども30人、保護者26人)のたくさんの方の参加を得て、楽しくイベントを行いました。皆さんやスタッフの熱意のたまものか、予報を覆して日差しにも恵まれました。天田代表から、貴重となったカヤネズミ原っぱの意義や維持活動の説明を行い、カヤネズミ紙芝居を楽しんだ後、二班に分かれて、①虫とりと観察、②カヤ原での愉快的遊び、③カヤ原探検を行いました。紙芝居は、今回名優の太田さんの都合があったため青木さんがピンチヒッター。おじさんカヤネズミのつぶやきが印象的でした。全員で記念撮影して、いよいよ開始です。

天田隊長の虫とり隊では、初めに柳瀬川で捕まえた魚などを水槽に入れた「柳瀬川水族館」を皆さん興味深く観察。土手の草原でバッタやイナゴの仲間、キチョウ、アキアカネなどたくさんの昆虫を観察し、捕まえては虫かごに入れて楽しそうでした。アマカエルもよく見つかりました。天田さんの説明を熱心に聞いていました。

カヤ原での遊びは、柳瀬川などで観察される鳥類や魚のカードを磁石の付いた竿で釣る「お宝釣り」。お目当てのお宝をねらって、上手に釣り上げていました。次はカヤ原のヨシやオギの矢で遊ぶ「矢なげの当て」。初めはなかなか真っすぐ投げられませんが、だんだんコツをつかんでうまく投げられるように。的に当ててお宝カードをゲットです。

最後はカヤ原の迷路を探検する「カヤ原探検隊」。スタッフからオオブタクサやアレチウリの実物により、外来植物除去活動の一端を紹介しました。迷路にはお宝カードが隠してあり、お気に入りのカードを探しながら探検。男の子がカヤネズミの巣を大発見、本日のハイライトです。オオブタクサ除去活動や迷路づくりなど準備作業でも見つからなかったのですが、本当によく発見できました。オオブタクサの抜き取り体験も熱心に。今年はテントウムシの成虫・幼虫がたくさん見られました。

最後は全員で恒例のマシュマロバーベキュー。焼いてとろり甘いマシュマロとさくさく塩味のクラッカーのとりあわせは抜群。和気あいあいにバーベキューを楽しみ、解散しました。スタッフ一同は改めてカヤネズミの巣を確認。カヤネズミが戻ってきていることが確認できて、本当によかったです。(鈴木 民雄)



[写真：青木 明雄]

新河岸川のあらまし（2）

新河岸川・荒川と堤防

新河岸川は荒川と武蔵野台地の間を流れ、主に台地からの水を集めている川で、川越の東側にある伊佐沼を源流とし、後述の昭和初期の改修工事までは、下内間木（朝霞市）の下流で荒川に合流していました。荒川とは親子のような関係で、かつては荒川を外川、新河岸川を内川とも呼ばれました。低地を流れる川の特徴ですが、どちらの川も頻繁に蛇行（自由蛇行）を繰り返しており、こうした川は水害を起こしやすく、宗岡などの沿川の村は常に水害にあっていました。

宗岡では、1644～62（正保1～寛文2）年頃、荒川の上流から続く堤防（荒川大囲堤）と新河岸川沿いの堤防（新河岸川除堤）に加え、上流側の南畑と下流側の内間木との境に堤防（佃堤と新田場堤）を築き、村全体を堤防で囲むことで洪水に備えましたが、これを惣囲堤と呼びます。こうした備えがあっても、度々水害に遭い、特に1910（明治43）年の被害は桁外れで、志木の台地（市場坂上）から浦和の台地（別所沼の先）まで幅6km程の荒川低地は全て水没しました。

新河岸川の舟運

新河岸川は勾配が非常に緩く、平時においては舟の運航に適しており、川越藩主の松平信綱は、新河岸川と荒川を利用し、川越と江戸の間で舟運を興しました。元々蛇行が多かったのに加え、舟が運行しやすいように人工的に蛇行を増やしたともいわれています。

沿川には多くの河岸場が設けられ、回漕問屋により舟の運航と物資の取引が行われまし

た。志木では当時の柳瀬川との合流点付近に引又河岸（明治以後は志木河岸）が設けられ、市場地区が栄えました。その対岸に宗岡河岸、近隣に前河岸・宮戸河岸がありましたが、1914（大正3）年に東上鉄道（池袋～川越）が開通する等の影響で舟運は衰退しました。

新河岸川の改修工事

1910（明治43）年の未曾有の水害では、関東地方で死者・行方不明者847人、家屋全壊・流失5,000戸の被害を出し、これを契機に荒川（現深谷市より下流）と新河岸川の大改修工事が行われました。

新河岸川の工事は1922（大正11）～30（昭和5）年に行なわれ、下流では、下内間木の荒川との合流点を廃止し、そこから北区の岩淵水門まで新たな川を開削して隅田川に繋ぎました。下内間木から上流では、蛇行した河道の直線化や兩岸への堤防の築造等が行われ、直線化により旧新河岸川部分の長さは3分の2に縮まり、現在の流れになりました。江戸時代の惣囲堤が村を守るように取り囲み、川は広い堤外地を自由に流れていたのに対し、新しい堤防は真っ直ぐな川を挟み込み、河道ぎりぎりの所に造られました。

こうした昭和の改修の成果も長くは続かず、戦後の都市化の進行と共に再び改修が必要となり、河川断面拡大のため、30年ほど前から堤防の移動やかさ上げの工事が行われました。いろは橋の下流には江戸・昭和・平成の3代の堤防が並行しているのが見られます。

（天田 眞）



志木・宗岡付近の蛇行した新河岸川（中央が柳瀬川の合流点）1885（明治18）年頃

新河岸川ぶらり散歩(1) (11月17日)

～志木河岸跡から福岡河岸跡へ～

当NPO代表天田氏の案内で、村山快哉堂の対岸、志木(引又)河岸跡から、富士見市の南畑大排水合流点、富士見江川合流点、砂川堀合流点、ふじみ野市の福岡江川合流点、新河岸川放水路等の説明を伺いながら、新河岸川を遡り、養老橋を渡った福岡河岸跡まで10ヶ所の河岸跡を辿りました。

舟運関係者が祀り、船から賽銭を投げたという大杉神社を対岸に見、山門が川に面した蓮光寺(川越市)、旧福田屋屋敷(福岡河岸記念館)等を見学、舟運で栄えた往時に思いを馳せました。同記念館の大正3年時点の鉄道路線図を見ると、池袋から川越までの東上鉄道(同年開通)が、荒川へと注ぐ新河岸川に平行に建設され、主要な河岸場に対応して駅が置かれたことがわかります。舟運から鉄道へと代わったことを実感しました。

今回は、10月の台風や豪雨により市内でも河川の増水や冠水で避難指示がでたこともあり、蛇行していた旧新河岸川、昭和・平成の河川改修や、

新河岸川除堤・下ノ谷堤の二重堤、洪水をびん沼川経由で荒川に放流するための新河岸川放水路、砂川堀雨水幹線等の説明を、皆さん真剣に聞いていらっしゃいました。(庭野 恵子)



[写真：青木 明雄]

わっか祭に参加して (9月28日) ～柳瀬川水族館～

柳瀬川水族館に、設営から撤収まで参加したのは、今回が初めての経験でした。

水槽には、ヌマチチブ、ウキゴリ、ドジョウ、カワリヌマエビ、ザリガニなど。じっくり見たのも初めてです。ヌマチチブとウキゴリは、同じ水槽にいますが、どうしても見分けがつかず、青木さんと庭野さんの根気の良い解説で、なんとか帰るまでには、分かるようになりました。

子供達の水槽を見る顔を反対側水槽越しに見るのが、とてもおもしろかったです。あんなに真剣な顔付き、それも水槽越しなので、こちらが見ていることを全く意識していない顔付き、どの子もステキな表情でした。

子供の他に、立ち止まってくれるのが多かったのが、中高年の男性でした。柳瀬川に生きものがいるの知らない人もいましたが、皆さん、子供の頃を懐かしんでいるようでした。

普段、西原などで一緒に作業しているスタッフ

の皆さんと(いつもは、作業をされていてゆっくり話をする機会がないので)いろいろおしゃべりができ、共通の話題があったりして、有意義なとても楽しい一日を過ごすことができました。

(竹野 延枝)



[写真：青木 明雄]

柳瀬川水族館に参加して

今年の柳瀬川水族館は6月16日・7月21日・8月18日・9月15日の4回開催されました。4回ともお天気に恵まれて無事に開催することが出来ました。初めての参加で、川に入るのも小学校以来おっかなびっくり、へっぴり腰です。当然、魚は全然捕れませんでした。でも川に入って青空を見上げると気持ちがスッキリします。土手に旗を立て、テーブルを設置、水槽に捕った魚を入れて水族館のはじまりです。土手に行く人々に声をかけます。お年寄りの方は昔の柳瀬川ではとか、今の状態はどうか等お話が弾みます。小さな子供たちは水槽の魚を見つけると水槽にへばりつくように見入っていて離れません。

心に残っているのは

- *ナマズの赤ちゃん：黒くてオタマジャクシのようでしたがひげが生えているからナマズだと教えてもらいまし。
- *ハゼ：ハゼがたくさん捕れた回がありました。生きて泳いでいるハゼを見たのは初めてでした。しかも目の前の柳瀬川で捕れた。本当にこんなに美しい魚なのかと感激しました。
- *立ち寄ってくださった方のお孫さんが昨年、夏休みの自由研究で柳瀬川の魚を調べようと何日



[写真：青木 明雄]

か朝に魚捕りに挑戦したが捕れず、この水族館で課題を仕上げ、賞を貰った。もちろんエコシティ志木の水族館協力と入れて。とのお話を伺いました。

まだ、魚のことも全然知識のない私ですが、今年の夏は素晴らしい体験をさせて頂きました。ありがとうございます。

(興村 幾子)

志木の生きもの調査

昨年と同じ場所をほぼ同時期に調査しました

荒川堤外(10月7日)：パークゴルフ場では、樹上のクヌギドングリを間近で観察。教えていただいたクヌギエダイガフシといわれる虫こぶがクヌギドングリのイガイガとそっくりなことが、なんとも不思議でした。田んぼでは、見慣れぬ野草を発見。アメリカキンゴジカ(金午時花)と判明。

志木ニュータウン周辺(11月11日)：近隣公園では、さまざまなドングリの殻斗の違いを確認。落ちている小枝に、育ったドングリと一緒にしている複数の小さな殻斗は、実らなかった果実で、シイナ(秕)と呼ばれること、教えていただきました。

道々、見事なボリュームのクマシデの花穂に感嘆。アカシデ、イヌシデの見分け方に熱心に耳を傾け、また、シイの実を味見。サクラ、ケヤキ、ヤマボウシ、ニシキギが、昨年よりはこころもち遅いながら、美しく紅葉し始め、街路樹のトチの黄葉が降り敷いていました。カツラの落葉の匂いは、



[写真：青木 明雄]

知る人ぞ知る醤油煎餅の匂いとか、ニシキギの翼(コルク層)は何のためにあるのか、クスノキから樟脳やカンフル剤をつくる等々、談義は尽きず、心もウォームアップするような散策でした。

(庭野 恵子)



スミレ

スミレ科 花期3～6月
高さ7～11cm。花は大きく濃紫色で、花弁は長さ1～2cm。花期の葉は長さ2～9cmの長楕円状披針形で先は丸く、葉柄に広い翼がある。日当たりのよい湿ったところで見られる。



ヘビイチゴ

バラ科 花期4～6月
高さ30～80cm。茎は地を這い、節から根を出して広がる。葉は黄緑色で3枚の小葉からなる。花は白色で長い柄の先につき、花びら5枚、直径1.2～1.5cm。赤い実は美味しくない。田のあぜなど日当たりのよいやや湿ったところで見られる。



オヘビイチゴ

バラ科 花期5～6月
茎は地を這い、葉は5小葉からなる手のひらを広げたような形。茎の上に直径約8mmの黄色の花をたくさんつける。田のあぜなど、やや湿ったところに見える。ヘビイチゴよりも大型という意味で、この名前がつけられた。



似たもの同士くらべてみよう

トキワハゼとサギゴケの違い



トキワハゼ

ハエドクソウ科 花期4～11月
高さ5～20cm。花は長さ約1cmの筒形。上唇は紫色で下唇は紫色をおびた白色。サギゴケに似ているが乾いたところにも生える。酒粕などでほぼ1年中見られる。



低いところにも生える

酒粕などでほぼ1年中見られる

サギゴケの花より一回り小さい



サギゴケ

ハエドクソウ科 花期4～5月
茎は地を這い、枝を伸ばして増える。高さ10～15cmの花茎をだし、花は濃紫色～紅紫色。筒形で長さ1.5～2cm。田のあぜなど湿ったところで見られる。トキワハゼに似るが、花は一回り大きく、香だけに吸く。



田のあぜなど湿ったところに見える

香に近づいて吸く

花はトキワハゼより一回り大きい

Cチーム

野草・シダ

昆虫(チョウ・トンボ)

チームリーダー 山崎光久

Cチームの執筆者は以下の通りです。

鈴木民雄、田村キミエ、林秀樹、細田和子、山崎光久

野草とシダは植物に大変造詣が深い田村さんを中心に掲載種の選定や説明文の推敲を行いました。

野草

野草の掲載種の選定の絞り込みは次の基準で行いました。

1. 散歩の途中でよく目にする。
2. あまり小さな花で、よほど注意をしないと気付かないものは除く(タチイヌノフグリ、ムシクサなど)

その結果141種(春咲く花72種、夏咲く花54種、秋咲く花15種)を掲載することにしました。図鑑として検索しやすいように開花時期を掲載しましたが、地球温暖化の影響からか開花が早まる傾向にあります。

「山溪ハンディ図鑑1 野に咲く花(増補改訂新版)改訂版」を全員共通の参考図書として、簡単な説明文を分担して作成し、グループ内で検討、さらに全体のレビューで修正をしていきました。

野草141種のうち外来植物は52種で約37%を占めますが、外来植物は繁殖力が強く、面積では70%以上を占めるのではないかと思います。特に河川敷におけるオオブタクサ、アレチウリ、セイバンモロコシの3種は地面を広く覆い、日光を遮って、その他の植物の生育を妨げています。



オオブタクサ

外来植物のうちで特に繁殖力が強く他の植物などに害をあたえるものは「特定外来生物」に指定されていますが、市内でもアレチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギクおよび水生植物のオオフサモが見られています。

野草の写真は出来るだけ全体像を掲載する方針となりましたが、単独であることは少なく、バックも同じ色になり、見にくいと思われるものもあるのは止むを得ません。

写真は主に山崎と林さんが担当しました。林さんは図鑑全般にわたって字句の統一等で大変力を貸してくださいました。また、細田さんは途中から忙しくて出席できなくなりましたが、昔の志木の野草の状態等を教えてくださいました。

シダ

シダについて、田村さん以外は全く無案内でした。シダの種類が多い「いろは親水公園こもれびのこみち」と「西原斜面林」へメンバーで出掛け、田村さんにいろいろと説明してもらいました。形からシダと分かって、違いを知り、名前を覚えるのは容易ではありません。一方でとてもシダと思えないシダもあることを知りました。ゼンマイは発芽の時はシダと分かって、成長して葉を広げると、とてもシダとは思えません。つる性のカニクサも同様にシダとは思えないシダの一つです。メンバーの鈴木さんがシダに大変興味を持ち、説明文等を担当してくれました。



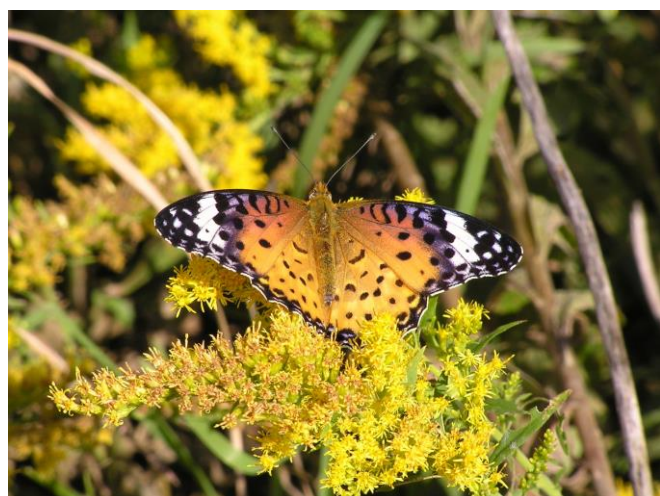
カニクサ

チョウ

チョウは山崎が撮り貯めた写真があるため手を挙げましたが、チョウの成虫の一部と幼虫の全ては A チームの天田さんから提供を受けました。

チョウはオスとメスで模様が全く異なるものや、翅を開いた状態と閉じた状態で見え方が違います。紙面の都合で、オス・メスや翅の表裏の全部を載せることは出来ませんでした。

チョウも温暖化の影響でツマグロヒョウモン、ナガサキアゲハなど、本来は暖かい地方で見られるチョウが志木でも見られるようになりました。



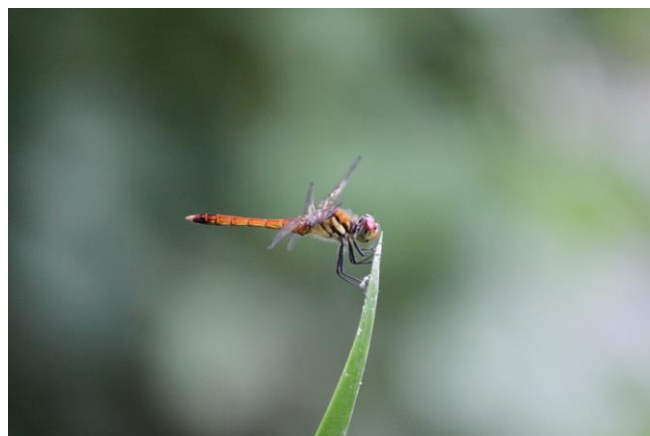
ツマグロヒョウモン

また、アカボシゴマダラは外来種が放蝶により増えたもので、飼育や移動が禁じられる「特定外来生物」に指定されています。

野草のところで触れましたが、外来植物が増えると、チョウの食草も少なくなり、花の蜜も吸えないことになり、減少することになります。

トンボ

トンボも山崎が撮り貯めた写真があるため手を挙げました。トンボも成虫の一部と幼虫（ヤゴ）については A チームの天田さん、B チームの毛利さんから写真提供を受けました。



アキアカネ

最近トンボの減少が問題になっています。特に石川県、福井県などではアキアカネがほとんど見られないとのことです。原因の一つに農薬が挙げられています。最近では田植えの際に苗代の根に農薬を含ませて植えることが多く、この農薬が溶け出してトンボのヤゴが死滅するのではとされています。ヤゴがいなくなるとそれを食べていたカエルがいなくなり、さらにそれを食べるヘビもいなくなります。（食物連鎖）

志木の生き物図鑑の作成を通して、自然の大切さを改めて認識しました。



春の柳瀬川風景

辻銀杏で待ちあわせに参加して 10月5日

志木ニュータウンのぺあもーるで「辻銀杏で街あわせ」があり、昆虫やへび・モグラなどの標本と水槽での展示を行いました。

いつもの空き店舗ですが、エコシティ志木の展示スペースがたっぷりありました。事前にわかっていれば活動写真パネルを持ってきたり、水槽ももう少し持ってきた柳瀬川水族館にすればよかったと思いました。残念！来年ですね！

水槽では、2日前に捕ったクサガメとヌマチチブを展示しました。昆虫やへび・モグラなどは天田さんのコレクションで、とても人気があります。

午前中は、隣でリンクスがフリーマーケットをやっていました。子供たちが楽しそうにお店をやっていました。

午後は、リンクスに代わり親子劇場がボードゲームを行っていました。大勢、親子連れで来て遊んでいました。

ぺあもーるの真ん中には、大きな銀杏の木があります。この前で、いろいろなアトラクションを行っていて、最後には県立志木高校の吹奏楽部による演奏が行われました。椅子席もあり、高齢者の方も楽しんでいました。



エコシティ志木の展示も人気があり、クサガメも一役かってくれました。

また、柳瀬川での総合学習に来た生徒が声をかけてくれたり、楽しい一日となりました。

(青木 明雄)

いろはふれあい祭りに参加して 10月18～20日

毎年10月中旬の週末は、いろは遊学館の「いろはふれあい祭り」に出展です。主催は「いろは遊学館利用者の会」を中心とした運営委員会で、今年は、当会理事の山口さんが、利用者の会代表として運営委員長を務めました。

このお祭りは、いろは遊学館が開館した年から始まり、今年は第17回。画期的な試みと言われた、志木小学校・いろは遊学館・いろは遊学図書館が一体となった複合施設が開館して、もう17年もたったわけです。

当会の展示場所は、第1回から変わらず、3階廊下の中央部の、遊学館と志木小教室を結ぶブリッジが架かる交差点で、通路にオープンなので、大変目につく好条件の場所です。

初期のころは、柳瀬川で捕まえた魚の水槽を2台程と、他は簡単なパネル展示程度でした。柳瀬川の魚の展示は今でも同じ（今年は台風の増水で水槽1台）ですが、近年は昆虫などの生きものの標本が多く、好評です。

向かって右側は、机に生きものの標本を並べ、壁面には生きもの関連の資料などを貼り、左側は、

机に刊行物と水槽を並べ、壁面には水塚調査の記録を貼りました。台風被害の直後だけに興味もあったようです。そして、正面の左右に活動紹介の写真を貼りつめました。



(天田 眞)

① ショウリョウバッタの脱皮 6月13日 [畠 光男]

いろは親水公園富士下橋左岸（カヤッ原）にて観察。

② ガガイモの花 9月20日 [庭野 恵子]

カヤッ原へ降りる階段脇にて。

③ クサギの実 9月26日 西原ふれあい第三公園にて。[庭野 恵子]

④ キイロテントウの羽化 西原斜面林 9月27日 [天田 眞]

⑤ ヒョドリジョウゴの花 9月29日 [庭野 恵子]

いろは親水公園斜面林道路脇

⑥ センニンソウの花 9月29日 [庭野 恵子]

いろは親水公園斜面林

⑦ ヒメアカタテハの幼虫 荒川堤防 10月7日 [天田 眞]

ヨモギの葉をつづり合わせた中に

⑧ 台風19号の荒川 10月13日 [青木 明雄]

台風19号の翌日の荒川です。横堤防を越えて流れている。

⑨ 濃霧の荒川取水堰 10月30日 [青木 明雄]

⑩ ツマミタケ 11月4日 [天田 眞]

志木中前の柳瀬川堤防の木質チップ



① ショウリョウバッタの脱皮



② ガガイモの花



③ クサギの実



④ キイロテントウの羽化



⑤ ヒョドリジョウゴの花



⑥ センニンソウの花



⑦ ヒメアカタテハの幼虫



⑧ 台風19号の荒川



⑨ 濃霧の荒川取水堰



⑩ ツマミタケ

会員紹介 竹内 重利さん

30年間生ごみを出さないエコ生活

平成元年にEM菌微生物を使い、密閉容器で生ゴミを堆肥にして土に戻す事を新聞記事で知り、家庭菜園も有機、無農薬栽培したい事もあり、即、密閉容器とEMボカシを買い求め、生ごみを堆肥化してプランターで土に戻すことを、数か月繰り返しました。虫が湧く事も無く、匂いは多少するものの生ゴミは形を残さず土に戻りました。その後、野菜の苗を買い植えて、生育状況を観察していましたが、土の状態は良くなり土壌改良するには、良いのではと思い、現在も使い続け30年になります。今は120坪位の家庭菜園を有機肥料ボカシと生ごみ堆肥を使い、無農薬で生ごみリサイクルをやり、30年間生ごみをゴミ回収に出した事は有りません。生ごみリサイクルを始めた時期に志木市で環境フェアがあり参加させて頂き、市民の皆さんに知って頂く事が出来ました。その



数年後にエコシティ志木発足会が有り、環境フェアで知り合った天田さんに誘って頂き入会させて頂きました。10年前からは日本ミツバチを飼い始め、8年前からは西洋蜜蜂も飼い始め、集密度で志木市周辺の花や自然環境が見る事も出来るかとも思っております。家庭菜園ではもみ殻、牛糞堆肥、有機肥料ボカシなど微生物を使い、無農薬で野菜栽培作り、益虫である足長蜂、カマキリ、てんとう虫などを温存しながらも、周りからは害虫が来るため防虫網を使いながら、体と環境に少しでも向い合えればと思いながらの日々です。



☆会員状況

2019年度更新済（11月19日現在）

正会員（個人） 37

正会員（団体） 2

賛助会員 2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★2019年度の継続更新を、引き続きよろしくお願いします。

■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティー協議会

志木市社会福祉協議会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

彩の国南西部地域NPO連絡会

川の国応援団

埼玉県生物多様性保全活動団体登録

彩の国みどりのサポーターズクラブ

志木市公園美化活動会

志木市放課後子ども教室りんくす

志木市教育サポートセンター

市内小中学校

情報満載！
当会のホームページ

NPO法人エコシティ志木

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

<『生きもの図鑑』作業状況>

印刷所からの印刷ができてきました！

青木 明雄

9月に五校版の内容レビューと写真の差し替えなどを予定通り終え、併せて索引の確認と見直しを行いました。説明文や写真のキャプションに記載されている種名についても、索引に載せることとし、漏れの無いことを確認しました。索引は、内容の訂正が発生することで影響が及ぶことがあり、注意が必要です。10人の目で見ていますので、大丈夫だと思います。

レビュー結果を反映して、10月1日に予定通り入稿しました。データーは、PDFの形で印刷所あてにデーター便というソフトを利用して送りましたが、月初の送信となったためか、アクセスが集中してなかなかうまく送れず、結局USBで持ち込みました。印刷所には、予め連絡しておいたため、スムーズに対応していただき、8日には受け取ることができました。校正用印刷物は、どんな大きさになるのか気になっていましたが、ちゃんと両面印刷されて、実際の大きさに裁断したものを、紐で綴ってくれました。生きもの図鑑の完成イメージのものを見たときには、感動しました。4年もの時間をかけたものがやっと見える形になりました。印刷はとてもきれいです。持ち歩くのにもちょうどいい図鑑ができました。私のPCの印刷とは違って、少し気になっていた小さな字のキャプションも問題なく見ることができます。印刷物での初校は、表紙から全ページを細かく見てレビューを行い、訂正頁を、11月20日に印刷所へ送ったところです。2月1日に刊行し、遅くとも次号の通信に同封して、会員の皆様へお届けします。楽しみにお待ちしております。



誰でもよく知っているカマキリの仲間は、それほど種類は多くありません。蛹の期間が無い不完全変態で、体色に緑色と褐色がある点などバッタに似ていますが、カマキリ目として独立した分類です。

肉食で、枝葉の中に隠れて待ち伏せし、近づいた昆虫などを、鎌形で側面がのこぎり状の前脚でしっかりと捕まえて食べます。自分の体より大きなセミ等も捕らえ、昆虫以外の小動物も食べることがありますが、生きたものしか食べません。

秋に産卵して寿命を終えますが、スポンジ状の卵塊は卵鞘（らんしょう）又は卵囊（らんのおう）と呼ばれ、産卵時に細かい泡を出し、その中に卵を数十個から数百個程産み付けます。春に孵化する幼虫は卵鞘からぶら下がり次々と出てきます。幼虫は薄い皮に包まれ、卵鞘の外に出ると同時に脱皮します。翅はありませんが成虫と同じ形です。

夏までに脱皮を繰り返し、成虫になりますが、脱皮殻もよく見かけます。

最も良く見かけるのはオオカマキリ。体長が大きく、体色は緑色又は褐色。後翅（下翅）は濃い褐色です。卵鞘は大型でやわらかい感じです。

チョウセンカマキリはオオカマキリによく似ていますが、後翅が淡い褐色なのが特徴。卵鞘は細長い形です。

ハラビロカマキリはオオカマキリより少し小さめですが腹部は幅広で、前翅の両側に白い点があるのが特徴。緑色または褐色で、卵鞘は丸っこく硬い感じです。

コカマキリは他種より小さめで、殆どが褐色です。鎌の内側に黒白の模様があるのが特徴で、石の裏など目につかないところで産卵します。



オオカマキリの威嚇ポーズ



オオカマキリの脱皮殻



オオカマキリの卵鞘



ハラビロカマキリ



ハラビロカマキリの卵鞘



ハラビロカマキリの孵化



産卵中のチョウセンカマキリ



コカマキリ



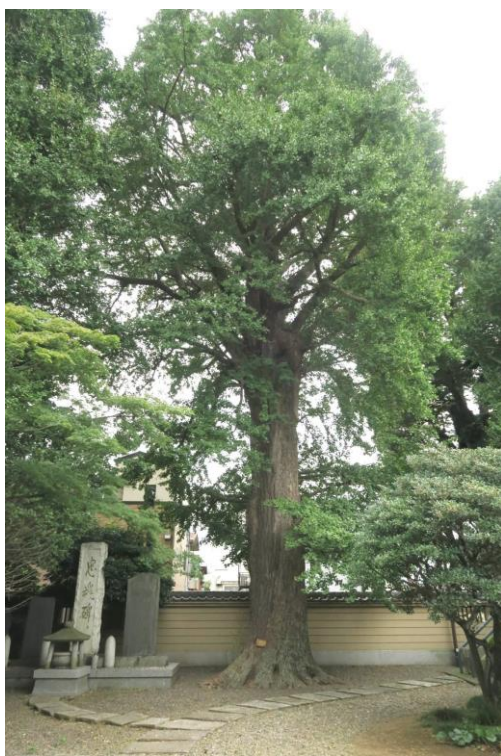
コカマキリの前脚の内側の模様

巨 樹 と の 出 会 い

《 2 》 志木市の巨樹たち…その1

本間 敏文

それでは、志木市の巨樹に会いにいきましょう。まずは、どこに、どのような巨樹があるのか？……調査してみました。その結果、36本の巨樹が見つかり、樹種としては14種類もありました。36本を樹種別にみると、一番多いのはケヤキ、二番目に多いのはイチョウ、そして、クスノキ、ポプラの順でした。ポプラが多かったのは意外でした。所有者別にみると、社寺が一番多く、次に個人宅、学校等です。



【宝幢寺のイチョウ】

まずは、柏町にある「宝幢寺」へ行ってみましょう。正式には「地王山地蔵院宝幢寺」で、同寺は明治27年から京都智積院を本山とする新義真言宗智山派となった。創建年代については諸説あり、未だ定説がありません。境内には、11本の巨樹があり、イチョウ、ケヤキ、

クスノキ、ヒマラヤスギ、タラヨウ、コウヤマキ等と色々な樹種の巨樹があり、楽しませてくれます。山門をくぐると、左右にケヤキの巨樹が出迎えてくれます。鐘楼堂の横にはイチョウの巨樹がそびえ立っています。単幹では市内一の巨樹です。そして、長屋門の外側にもケヤキの巨樹があり、本堂の横にはタラヨウ、ヒマラヤスギの巨樹、中側にはコウヤマキの巨樹があります。また、本堂の裏側にはケヤキ、ムクノキ等の巨樹があります。

それでは、イチョウを観てみましょう。幹周りは562cmあり、樹高も30m以上あり、中々重厚な樹です。また、樹形も素敵です。健全度は良好で、特に欠損ありません。秋になるとギンナンがなりますので、この樹は雌木ですね。(次回に続く)

樹 種	本 数	(%)
ケ ヤ キ	13	36
イ チ ヨ ウ	5	14
ク ス ノ キ	5	14
ポ プ ラ	3	8
そ の 他	10	28
合 計	36	100

所 有 者	本 数	(%)
社 寺	17	49
個 人 宅	11	30
学 校	7	19
公 園	1	2
合 計	36	100

編集後記

◇自然インフォメーションには、新しい人からの投稿があり、ありがとうございました。マイクロプラスチックの話題がマスコミをにぎわしていますが、一般廃棄物の最終処分場の確保も大きな問題となっています。そんな中で、竹内さんのエコ生活も参考になったのではないかと思います。(青木 明雄)

エコシティ志木通信

第96号 2019年12月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田 眞)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com